小学部中学年ダウン症児が席を離れる時にイスを入れるための指導

1

指導目標

【長期目標】

席を離れるときにイスを入れることができる。

【短期目標】

朝の会で席を離れるときにイスを入れることができる。

2

方法（１）

【対象児】

４年生　男児
ダウン症
簡単な言葉の指示理解ができる。

【指導場面】

朝の会中の係活動で席を離れるとき
（１回目・出席カード，２回目・係のカード，
３回目・終わりの挨拶後）

【般化場面】

帰りの会　国算の時間

3

方法（２）

【教材】

（ステップ１）

・イスの絵と「イスを入れよう」と書かれた紙（A4）
・星シール

（ステップ２）

・イス，机の絵と「イスを入れよう」と書かれたカード（５×１０㎝）
・金色のシール

4

手続き（１）

【ベースライン】

・教材は不使用。
・イスを入れる入れないにかかわらず，修正・賞賛はしない。

【ステップ１ 】

（１）イスの絵と「イスを入れる」と書かれた紙を机の上に置く。
（２）朝の会の前に３回イスを入れる練習をする。
（３）イスを自分から気づいて入れた時に「すごい」と褒め，星シールを渡す。入れない場合はイスを指さして入れるよう促す。

5

手続き（２）

【ステップ２ 】

（１）イス・机の絵と「イスを入れる」と書かれたカードを机に貼りつけておく。
（２）イスを自分から気づいて入れた時に「すごい」と褒め，金シールを渡す。入れない場合はイスを指さして入れるよう促す。

記録方法

１点：指示なしでイスを入れた

０点：指示あり（指さし、声かけ）でイスを入れた

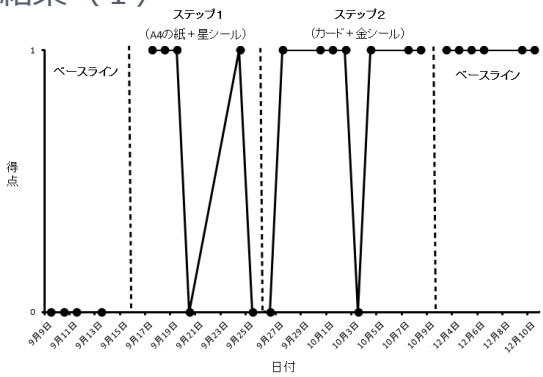
6

達成基準・中止基準

- 達成基準
  - イスを入れることが３日連続できたら達成とする。
- 中止基準
  - 指示が必要だった日が３日続いたら手立てを検討する。

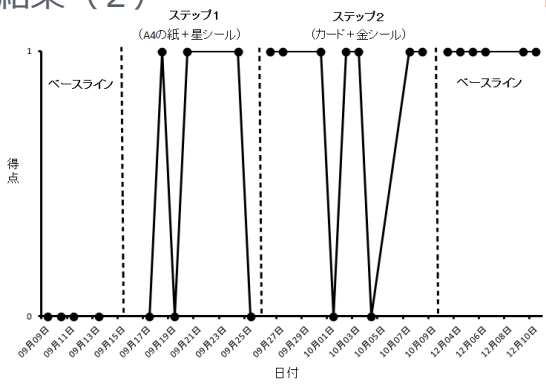
7

結果（１）



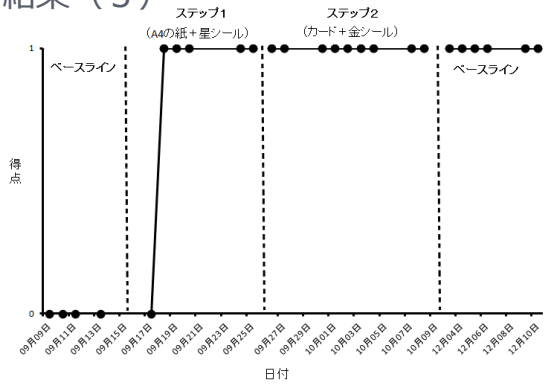
出席カード（１回目）を貼りに行く時イスを入れたかどうか

結果（２）



係のカード（２回目）を貼りに行く時イスを入れたかどうか

結果（３）



挨拶後（３回目）にイスを入れたかどうか

結果（４）

- ３回目の挨拶後は指導開始２日目からイスを入れることができるようになった。
- １回目の出席カード，２回目の係のカードを貼りに行く時は一度達成しても，その後入れ忘れる日があり，行動の維持が難しかった。
- 指導開始２週間でステップ２を終了し，シールを渡すことをやめて指導を継続した。２カ月後に再度記録を取ると，３回ともイスを入れることができ，般化場面である帰りの会，国算の時間にもイスを入れることができるようになった。

11

考察（１）

- シール・褒め言葉の効果
  - 席を離れる前にシールを貼ったカードを指さしてシールがもらえることを楽しみにする様子が見られ，効果的だった。
  - 指導の途中からはイスを入れた後に教員を見て，褒め言葉を期待する様子が見られ，シールよりも褒められることがうれしいようであった。
- イスを入れるカードの効果
  - 席を離れる前にカードを指さしてイスを入れることを確認する様子が見られ，効果的だった。

12

考察（２）

- １，２回目の行動の維持が難しかった理由
  - イスを入れることは分かっていても，係の仕事に注意が向き，入れ忘れることがあったと考えられる。
- ３回目のみ行動の定着が早かった理由
  - その場で挨拶するのみでイスを入れることに注意が向きやすかったと考えられる。
  - 友だちも同時にイスを入れるため，忘れていても思い出すことができ，入れ忘れが減ったと考えられる。
- 今後の課題
  - いろいろな行動を教える場合，教師と１対１で練習し，ある程度行動が形成された後に友だちなどモデルとなる人物を決めて定着を促すことが効果的であると考えられる。

13